

責任ある
献血とは



お願い！



輸血を受ける患者さんのために「責任ある献血※」をお願いします。

※エイズなどの検査を目的に献血を絶対にしないこと、問診に正しく答えて献血していただくこと



献血をご遠慮
いただく場合とは

次に該当する方は献血をご遠慮ください

- ✓ 3日以内に 出血を伴う歯科治療（抜歯、歯石除去等）を受けた方
- ✓ 4週間以内に 海外から帰国（入国）した方
- ✓ 1ヵ月以内に ピアスの穴をあけた方
- ✓ エイズ検査が目的の方
- ✓ 6ヵ月以内に 下記に該当する方
 - (a) 不特定の異性または新たな異性と性的接触があった
 - (b) 男性どうしの性的接触があった
 - (c) 麻薬、覚せい剤を使用した
 - (d) 上記 (a)～(c) に該当する人と性的接触をもった
- ✓ 今までに 下記に該当する方
 - (a) 輸血（自己血を除く）や臓器の移植を受けた
 - (b) ヒト由来プラセンタ注射薬を使用した
 - (c) 梅毒、C型肝炎、マラリア、シャーガス病にかかった
- ✓ 下記のいずれかに該当し、中南米諸国（メキシコを含むがカリブ海諸国は除く）を離れてから 6ヵ月以上 経過していない方（6ヵ月以上経過している方は職員へお申し出ください。）
 - 中南米諸国で生まれた、または育った
 - 母親または母方の祖母が中南米諸国で生まれた、または育った
 - 中南米諸国に連続して4週間以上滞在、または居住したことがある
- ✓ ジカウイルス感染症（ジカ熱）と診断され、治癒後1ヵ月間を経過していない方

次に該当する方は職員にお申し出ください

- ✓ 3日以内に 薬を服用、使用した方
- ✓ 1年以内に 予防接種を受けた方
- ✓ 海外滞在歴について
 - 3年以内に外国（ヨーロッパ、米国、カナダを除く）に滞在した方
 - 昭和55年以降、ヨーロッパ、サウジアラビアに通算1ヵ月以上滞在した方



上記に該当されない方でも、問診内容により
献血をお断りすることがあります。

献血前にお読みください

献血前に

- お名前、生年月日、住所、電話番号等は正確にお答えください。
- 初めて献血をされる方は、ご本人の確認のため、運転免許証などの提示をお願いします。
- 問診項目には正確にお答えください。事実と異なる回答をされた場合、輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合があります。**
- 献血に伴う副作用予防のため、献血前に水分(スポーツドリンク等)を補給してください。
- 献血後に高所作業や激しいスポーツ、自動車の運転等をされる方は献血前にお知らせください。特に乗り物の運転をされる方は、献血後に十分な休憩(30分以上)をおとりください。

献血時は

- 体重、血圧、脈拍、体温や血色素量(ヘモグロビン濃度)を事前に測定します。
- 200mL・400mL献血では10分から15分位、成分献血では体重等に応じて採血する量(上限600mLまで)が異なりますので、40分から90分位の採血時間がかかります。
- 採血針や採血バッグ等は、お一人ずつ使い捨てとなっています。
- 採血装置の不具合等により、採血が中断されたり、いただいた血液が血液製剤に使用できなくなることがあります。

献血に伴う注意と副作用

- 血液には鉄分が含まれているため、献血により身体から鉄分が失われます。日頃から鉄分を補う食事を心がけましょう。
- 次のような症状が起きた場合は、すぐに職員にお知らせください。
 - ・針を刺したときに、強い痛みやしびれがある場合。
 - ・気分不良やめまい等の症状がある場合。
※立ち上がりず、そのままの姿勢でお知らせください。
 - ・口唇や手指のしびれ感などの症状がある場合。
※成分献血では血液が固まらないように抗凝固剤(クエン酸ナトリウム)を使用しているため、このような症状を起こすことがあります。
 - ・皮下出血がある場合。
- 採血針を刺したところに、跡が残ることがあります。

献血していただいた血液は

- 検査を実施し血液製剤の基準に適した場合、輸血用血液製剤及び血漿分画製剤の原料に使用されます。
 - ※輸血用血液製剤とは、「赤血球製剤」「血漿製剤」「血小板製剤」「全血製剤」があります。
 - ※血漿分画製剤とは、血漿中に含まれる血液凝固因子、免疫グロブリン、アルブミンなどのたんぱく質を抽出・精製したものです。
- 献血血液の成分である血漿を原料として、国内製薬企業において製造されています。
- 血漿分画製剤については、国内の患者さんに使用される他、国内自給と安定供給に支障が生じない範囲で、国が定める需給計画に基づき海外の患者さんのために輸出される場合があります。
- 血液の一部は少なくとも11年間冷凍保存し、輸血による副作用や感染症などの調査のために使用します。

献血の依頼について

- 受付時に確認させていただく「献血の依頼についての応諾意思」に同意いただいた方には、はがき、電話、メール、LINE等により、患者さんに必要な血液製剤を供給するために、献血のご協力をお願いする場合があります。

献血後のお知らせ（検査結果）

献血受付時に下記の2種類の検査結果について、郵送による通知のご希望をお伺いしています。
(検査結果は献血後1ヵ月以内に親展にてお届けします)

“ラブラッド会員”※の皆様には下記(1)の検査項目の確認方法を、郵送による通知から会員専用Webページによる閲覧へ変更いただくようお願いしています。(郵送より結果を早く確認でき、過去の結果も参照可能です) ※“ラブラッド会員”とは、献血Web会員サービス ラブラッドにご登録いただいている献血者です。

(1) 通知している検査項目

・血液型検査、生化学検査・血球計数検査

(2) 検査で異常を認めた場合に通知する項目

・B型・C型・E型肝炎ウイルス検査・梅毒検査・HTLV-1検査
・T.cruzi検査(シャーガス病の安全対策の対象者のみ)

※検査目的の献血を防止するため、エイズウイルス(HIV)検査については、通知していません。

検査目的の献血をお断りする理由

エイズウイルスや肝炎ウイルスの感染初期には、強い感染力を持つにもかかわらず、最新の検査技術を用いても検出できない期間があります。

エイズウイルスなどの感染に不安がある時に検査目的で献血をされると、検査で検出できない期間だった場合、患者さんにウイルスを感染させてしまう可能性があります。

エイズ検査施設

エイズ検査をご希望の方は最寄りの保健所にお問合せください。

保健所ではHIV検査を匿名、無料で受けることができます。

「HIV検査相談マップ」(<https://www.hivkensa.com>)に、

保健所などの検査施設情報が掲載されています。

HIV検査相談マップ



ご協力ください

献血後、健康診断や医療機関などで肝炎等と診断された場合、またその他の病気や感染症にかかっているとわかった場合は、血液センターまでご連絡ください。

輸血を受けられた患者さんについて感染症などの報告があった場合、その原因調査を行うため、また、献血者ご自身の健康管理のため、検査用血液の採血を再度お願いしています。

献血された方にコールバック用紙「今一度、ご確認をお願いします!」という印刷物をお渡しします。こちらの記載に関して、思い当たる内容があった場合は、必ず献血当日中にコールバック用紙「今一度、ご確認をお願いします!」に記載されている電話番号へお電話ください。

東京都赤十字血液センター(03-5272-3511)

献血の同意説明書

献血にご協力いただき、ありがとうございます。献血いただいた血液は、輸血用血液製剤及び血漿分画製剤の原料に使用されます。「お願い！」パンフレットと併せて以下の1～5の事項をご確認いただき、献血受付へお進みください。

1. 献血に伴う副作用等について

- ① 気分不良、吐き気、めまい、失神などが0.7%（約1/140人）、失神に伴う転倒が0.008%（1/12,500人）の頻度で発生します。
- ② 針を刺すことによる皮下出血が0.2%（1/500人）、神経損傷（痛み、しびれ、筋力低下など）が0.01%（1/10,000人）の頻度で発生します。
（医療機関の受診を伴う副作用には、「献血者健康被害救済制度」が適用されます。）
- ③ 成分献血では、血液が固まらないように抗凝固剤（クエン酸ナトリウム）を使用しているため、口唇や手指のしびれ感などの症状が現れる場合や、予期せぬトラブルなどにより血液をお返しできない場合があります。

2. 個人情報の取扱いについて

- ① 個人情報や検査結果等は血液センターにおいて厳重に管理され、安全な血液製剤を安定的に確保し、患者さんへお届けするために、また、皆様の健康を守り、安全な献血のための研究に利用させていただきます。※詳細は裏面をご覧ください。
- ② 健康診断の結果、献血いただけないことがあります。申告いただいた個人情報は、医師法、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」などの定めにより削除できません。

3. 血液の検査等について

- ① いただいた血液の一部を用いて、次の検査を行います。
血液型（ABO型、Rh型、HLA遺伝子型等）、不規則抗体、梅毒、B型・C型・E型肝炎ウイルス、エイズウイルス（HIV）、ヒトT細胞白血病ウイルス-1型（HTLV-1）、ヒトパルボウイルスB19、ALT（肝機能）等
※あなたの血液をもらった患者さんやあなた自身の健康のため、上記以外にも病原体を検査することがあります。
- ② 血液型や輸血副作用の検査・解析のため、赤血球型、白血球型、血小板型及び血漿蛋白の遺伝子検査を行うことがあります。
- ③ 血液製剤の品質管理や輸血用の検査試薬の製造に使用することがあります。

4. 血漿分画製剤の海外輸出について

血漿分画製剤については、国内の患者さんに使用される他、国内自給と安定供給に支障が生じない範囲で、国が定める需給計画に基づき海外の患者さんのために輸出される場合があります。

5. 血液の有効利用について

いただいた血液は、個人を特定できる情報と切り離し、厳密な審査のもと、一般公募された研究機関等および日本赤十字社が実施する、以下の研究開発等に使用することがあります。

なお、その際、遺伝子を解析することがあります。

- ① 血液製剤の有効性・安全性の向上及び検査法の向上を目的とした使用
- ② 病気の診断・治療や国民の健康状態の改善を目的とした使用

詳しい研究項目等は添付資料裏面をご覧ください。

献血者の皆様の個人情報取り扱いについて

日本赤十字社では、献血者の皆様の個人情報について、法令を遵守し、以下のように適正に取り扱います。

個人情報の利用目的

献血者の皆様の個人情報は、安全な血液製剤を安定的に確保し、患者さんへお届けするために、また、皆様の健康を守るために利用いたします。

具体的な利用目的は、以下のとおりです。

- ・血液事業に関する情報の提供や献血の依頼などのため
- ・献血受入れ時の確認等のため
- ・安全に献血いただくための健康被害（採血副作用）対策の研究のため
- ・献血者の皆様への検査結果等の通知のため
- ・血液製剤の安全性確保に必要な血液検査・試験の実施のため
- ・血漿分画製剤製造国内メーカーへの原料血漿配分のため
- ・保管検体の検査結果を医療機関等へ情報提供するため
- ・遡及調査の結果を医療機関等へ情報提供するため
- ・健康被害（採血副作用）における保険会社、厚生労働省等への連絡のため
- ・血液の有効性や安全性向上の研究のため
- ・国の指導の下に行われる他の研究機関との共同研究のため
- ・内部外部における特殊な検査試薬の製造のため
- ・患者さんに適合した血液製剤の確実な供給のため
- ・血液事業に関する表彰のため、また、国・地方公共団体等への表彰対象者の報告のため

個人情報の種類と収集方法

個人情報の種類と収集方法は以下のとおりです。

- ・献血申込書（診療録）、登録申込書や健康被害（採血副作用）を負った場合の請求書等に記載された住所、氏名、生年月日、電話番号、口座番号など
- ・医師等が献血申込書（診療録）に記載した事項
- ・医師等が献血者健康被害記録（採血副作用記録）に記載した事項
- ・検体の検査から得られる情報
- ・献血者の皆様が申告された情報

情報の目的外利用・提供

皆様の個人情報は、法令に定めのある場合やご本人が同意している場合を除き、目的外に利用すること及び前記の「個人情報の利用目的」に記載された以外の第三者に提供することはありません。

個人情報の管理方法

皆様の個人情報を正確、最新のものにするため常に適切な措置を講じるよう努めています。

また、個人情報の不正な流出を防止するため等の安全対策を講じています。

なお、日本赤十字社が個人情報に関わる業務を外部に委託する場合にも、同様に厳重な管理を行なわせます。

開示・訂正等の請求について

ご自身に関する情報について開示をご希望の場合、または血液センターが保有する個人情報が事実と異なる場合には、献血カードに記載されている連絡先までご連絡ください。

ご本人であることを確認させていただいた上で対応いたします。

日本赤十字社の個人情報の取り扱いについては、<https://www.jrc.or.jp/> をご覧ください。

献血の同意説明書「5. 血液の有効利用について」の説明

1. はじめに

献血血液（検査用検体の残りや検査により不適合となった血液など）を研究に使用することで、①血液製剤の有効性・安全性の向上及び検査法の向上のほかに、②病気の診断・治療法の開発が促進され国民の健康状態の改善などに役立つ可能性があります。

そのため、献血血液を研究に使用することへのご理解をお願いしています。

2. 対象となる研究について

①血液製剤の有効性・安全性の向上及び検査法の向上を目的とした研究のほかに、②病気の診断・治療や国民の健康状態の改善（国の公衆衛生の向上）を目的として行われる研究で、かつ献血血液を使用しないと実施が難しい研究が対象です。さらに外部の研究機関などから「献血血液の研究開発等への使用に関する公募」により申請され、日本赤十字社で承認された研究に限られます。これらの研究のために献血血液が外部研究機関などへ提供される際は、氏名や住所などの情報は切り離し、個人が特定できないようにします。

外部研究機関で実施される①の研究課題と研究内容が多岐にわたる②の研究課題を裏面に記載しました。なお、研究の内容により遺伝子を解析することがあります。

3. あなたの利益・不利益について

研究に使用する献血血液は、上記2のように、氏名や住所など個人を特定できる情報と切り離して使用するため、あなたに不利益はありません。また、個人的に受ける利益もありません。

4. 同意と撤回について

献血血液を研究に使用することは、あなたの自由意思による同意に基づきます。同意をしないからといってあなたの不利益になることはありません。

また、同意は、献血血液が研究に使用される前であれば撤回することができます。ただし、早ければ、採血翌日に使用される場合があります。

同意の撤回を希望される場合は、下記の連絡先までお電話をお願いします。

ご不明な点がございましたら、受付の職員にお申し出ください。

電話番号

無料 0120-99-2056

この電話は24時間対応の受信専用録音電話です。
プッシュボタンによる採血番号等の入力はできません。

同意を撤回するためには、採血番号と生年月日の両方が必要です。
あなたの声でお知らせください。

※採血番号については、献血時にお渡しするチラシ（右写真）の
枠内に記載しております。

令和5年度実施の献血血液を使用する研究課題

裏面

研究課題（献血者説明用課題名）

- 1 【27J0003】 血液中の細胞に抗酸菌を感染させる実験から抗酸菌症の発症の仕組みを解明する
- 2 【28J0040】 ヒト臍帯血血液幹細胞の増幅と血球系細胞への分化能に関する研究
- 3 【28J0064】 抗 HTLV-1 ヒト免疫グロブリンによる HTLV-1 の革新的感染予防モデルの開発とその有効性の検討
- 4 【29J0011】 日本国内に移入される可能性のあるウイルスの高感度核酸検査法の開発
- 5 【29J0030】 ヘパトカインを標的とした診断薬・治療薬の開発
- 6 【29J0051】 血液中の免疫細胞を利用した、からだを守る仕組みの解明
- 7 【29J0056】 痛風・高尿酸血症リスクに関連する ABCG2 遺伝子の解析：Jra 抗原陰性者の解析による新規リスク変異の検討
- 8 【30J0004】 関節リウマチにおける骨破壊を抑制する方法の検討
- 9 【30J0040】 血液製剤の病原体不活化の研究と B 型・C 型肝炎ウイルスの培養系の開発
- 10 【30J0050】 癌における血液由来細胞の解析
- 11 【31J0005】 Medical gas による血小板保存法の開発
- 12 【31J0014】 副作用の少ない抗がん剤の開発—血液蛋白質への作用研究—
- 13 【31J0016】 血漿から濃縮した止血因子の有効な作製方法の確立
- 14 【31J0017】 ドローンで血液を運ぶ研究
- 15 【31J0020】 心筋梗塞や脳梗塞を診断できる血液検査法の開発
- 16 【31J0021】 微振動が血流特性に与える影響についての研究
- 17 【31J0025】 回路チューブ内の血液凝固を検出するセンサを開発する研究
- 18 【31J0032】 有効期限を超えた血小板製剤の新たな活用法の検討
- 19 【31J0035】 若年の B 型肝炎ウイルス陽性者においてワクチンが効きにくい B 型肝炎ウイルスの存在を検討する研究
- 20 【31J0041】 体外式膜型人工肺 (ECMO) の使用が人体に与える影響の検討
- 21 【R020007】 iPS 細胞を用いた血小板製剤の開発
- 22 【R020008】 血液凝固反応を防止する技術の開発
- 23 【R020018】 新しいヒト免疫不全ウイルス制御法の開発研究
- 24 【R020019】 悪性腫瘍に対する養子免疫 T 細胞療法の開発研究
- 25 【R020023】 血液検査利便性向上のための血球分離方法の開発
- 26 【R020031】 大量出血した場合の止血機能の研究
- 27 【R030016】 アレルギーに関係する T リンパ球の分化経路の解明
- 28 【R030028】 医薬品を汚染する発熱性物質を血液で評価する方法の開発
- 29 【R030030】 iPS 細胞由来の HLA クラス I 欠失巨核球細胞のストックおよび血小板産生に関する研究
- 30 【R030031】 炎症におけるリンパ球機能の解析
- 31 【R030036】 T 細胞および制御性 T 細胞の解析研究
- 32 【R030037】 糖鎖を認識するタンパク質であるガレクチン 9 に血小板凝集の阻害作用があるか？
- 33 【R030039】 ① ヒトが元々持っている抗体の解析② ヘルペスウイルス検出技術の開発
- 34 【R030047】 ヒト樹状細胞前駆細胞の同定と新規培養方法の樹立
- 35 【R030048】 血液中のリンパ球を用いた癌治療法の研究開発
- 36 【R030049】 血液中の代謝物を網羅的に検出・解析する技術の活用に関する基礎研究
- 37 【R040014】 血液検査による感染症の診断法の開発
- 38 【R040020】 治療用 iPS 細胞の製造法の開発
- 39 【R040022】 新鮮凍結血漿解凍装置の改良による製剤品質への影響
- 40 【R040023】 微細な酸素の泡を含んだ透析液と血液をブレンドすることで血液を酸素化し呼吸を助ける方法の研究
- 41 【R040025】 COVID-19 における免疫研究
- 42 【R040026】 麻酔薬の癌に対する免疫に及ぼす影響を探索します
- 43 【R040027】 血小板製剤の長期間の保存を可能にするための研究
- 44 【R040034】 培養細胞での感染増殖が可能な B 型肝炎ウイルス株の同定
- 45 【R040036】 病気の治療・予防・診断に有用な血中因子の探索
- 46 【R040041】 血液から白血球のみを分離する手法の開発
- 47 【R040043】 人の血液に含まれる薬毒物の正確な分析法の確立と品質管理
- 48 【R040045】 さい帯血の血液細胞の性質を明らかにすることでさい帯血が脳梗塞治療にも応用できるかを調べる研究
- 49 【R050006】 血液循環装置での流れの激しさが血液に与える影響の調査研究
- 50 【R050010】 骨髄由来単核球細胞分離装置の開発
- 51 【R050013】 結核やウイルスを攻撃する免疫細胞の役割を解明する
- 52 【R050015】 ヒトパルボウイルス B19 抗原検査試薬の性能評価
- 53 【R050016】 E 型肝炎ウイルス検査試薬の性能評価
- 54 【R050017】 パルボウイルス B19 検査試薬の性能評価
- 55 【R050019】 ウイルス感染症の予防および治療における免疫細胞の働きの解明
- 56 【R050021】 鳥抗原の吸入により生じるアレルギー性肺炎（過敏性肺炎）の原因抗原タンパクに対する血中抗体測定の有用性を調べる研究
- 57 【R050025】 流行している梅毒の菌株についての解析
- 58 【R050026】 マラリアワクチン研究開発準備のためのヒト血漿のポリビリアスザル細胞培養での有用性の検討
- 59 【R050027】 ウイルス治療薬ガンシクロビルの血液濾過透析膜への吸着を調べる研究
- 60 【R050028】 免疫チェックポイント阻害剤による抗がん治療効果を予測する血清検査法の開発
- 61 【R050029】 無人航空機を用いた血液製剤搬送の実行可能性と品質への影響に関する研究
- 62 【R050030】 腎移植後の BK ポリオーマウイルス関連腎症とドナー・レシピエントの抗 BK ポリオーマウイルス抗体価に関する研究
- 63 【R050032】 医薬品の副作用を予測するための研究
- 64 【R050034】 新規パルボウイルスワクチンの開発
- 65 【R050036】 献血者血液を用いたウイルス感染症流行予測と調査に関する研究
- 66 【R050037】 血液中の細胞から効率よく iPS 細胞を作るための研究
- 67 【R050038】 血液製剤の安全性を確保するための病原体不活化法の研究とそれに使用するためのパルボウイルス B19 培養法の確立
- 68 【R050039】 日本で初めての垂直離着陸のより安全なドローンによる血液輸送を完全に無人で自動で行う実証実験
- 69 【R050040】 自己免疫性疾患ではどのような細胞機能異常をきたしているか
- 70 【R050041】 「白血球除去工程後のフィルター」に含まれる白血球分画のフィーダー細胞としての機能評価
- 71 【R050042】 青年期と幼年期のヒトから得られる制御性 T 細胞を比較して細胞発生・増殖の原理を解明する

※年度単位での公開のため、まだ実施されていない、または終了している場合があります。

研究の内容をお知りになりたい方は下記ホームページでご確認いただくか、受付の職員にお申し出ください。
<https://www.jrc.or.jp/donation/blood/koubo/>

「麻しん（はしか）」患者が発生しています。

**○麻しん（はしか）と診断された方と接触された方は
3週間は献血をご遠慮ください。**

麻しん（はしか）には、**38℃前後の発熱や咳、鼻水といった風邪のような初期症状**があります。

最近、上記のような症状があった方は職員へお申し出ください。

また、家族、友人あるいは職場の同僚等に麻しん患者がおり、その方と接触された場合、接触後3週間は献血をご遠慮いただくこととなります。

◆ 麻しん（はしか）について

原 因：麻しんウイルス

潜伏期間：10～12日

主な症状：感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が出現。2～3日38℃前後の熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現。

感染経路：空気感染（麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下）

※**献血後3週間以内**に医療機関にて麻しん又は麻しん感染疑いと診断された場合は、血液センターまでご連絡ください。

輸血用血液の安全のためご理解とご協力をお願いいたします。

東京都赤十字血液センター（03-5272-3511）

E型肝炎に関するお願い

ブタ、イノシシ、シカの肉や内臓（レバーなど）を生又は生焼け※で **6カ月以内** に食べた場合は、献血はご遠慮ください。

※生焼け：中心部に赤みが残っている状態

（参考<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049964.html>）



◆E型肝炎について

E型肝炎は、ウイルスに汚染された水や食べ物から感染するウイルス性肝炎です。感染源となる食べ物は、日本では加熱不十分なブタ、イノシシ、シカの肉や内臓（レバ刺しやレアの焼肉等）が主になります。感染して発症すると、発熱、全身倦怠感、悪寒、嘔吐、食欲不振、腹痛等の消化器症状を伴いますが、症状がないこともあります。

感染した人が気付かずに献血した血液が輸血に使用された場合、患者さんがウイルスに感染し、重篤な症状を引き起こす場合があります。

◆日本赤十字社では輸血用血液の安全性の向上のためE型肝炎検査（HEV NAT 検査）を導入しました。

E型肝炎（HEV）の検査が陽性となった場合は、献血後にお知らせします。陽性となった献血日から6カ月間は献血をご遠慮いただきますが、その後はまた献血にご協力いただけます。

E型肝炎に関する詳しい情報は下記アドレスをご確認ください。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/08/h0819-2a.html>



患者さんに安全な輸血用血液製剤をお届けするため、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。